

column

俳優目線から皆さんに伝えたいこと

中小企業で勤務されている皆さんへ、私のような者のコラムがお役に立てるのかと不安なところがございますが、ただ特殊な経歴なことは自覚しておりますので、普通の道とは違う経験から皆さんの中で何かしらの「ヒント」が生まれたら、それはもう大変光栄です。

申し遅れました、沖縄で俳優をしています「西平寿久」と申します。代表作は『琉球トラウマナイト』『島守の塔』などがございます。全国区で有名な桐谷健太さんや吉岡里帆さんと共演できたことは今でも嬉しく思っています。

社会はドラマチックに見えている

社会という世界から離れている私からすると、会社とはきつと凄まじくドラマチックなところなのだろうと想像しています。社長がいて部長がいて課長がいて、それから先輩がいて同僚がいて後輩がいて。朝同僚に会ったら「あの人があんなことを言ってい

た」「あの人があんなところに行っていたみたいだよ」などの会話が始まり、今にもドラマが始まるような展開ばかりではないですか！楽しいだろうなあと想像する一方、現状一步引いて日本社会を見てみると、そうでもないことは私でもわかります。

若い人は大人を見ている

その中でも一番深刻に感じることは日本の自殺者数。令和5年度警察庁自殺統計原票データの情報をみると昭和の時代から毎年2万人以上の自殺者が増えています。また10代の自殺者数も徐々が増えてきていることは社会全体で考えないといけないことだと思います。

当然ながら若い人は大人を見ているはずで、大人が楽しく輝いていたなら、歳を重ねることも素敵に思えるはず。若い人が未来に希望を持っていないことは大人の責任が大きいのではないのでしょうか。皆さん子どものため、お年寄りのためと言って、身を粉

にして頑張っていますか？誰かのために頑張ることとは、とても素敵なことだと思います。しかし、あなたが疲弊している状況を見て、あなたの子どもや両親は心配に思うのではないのでしょうか？大切な人に心配をかけたくないと思うのであれば、あなた自身がより豊かに生きることが大切なのではないのでしょうか。と、いかにも演劇人が舞台上で吐くセリフ回しでお話させていただきましたが、きつとこれでは誰にも伝わりませんよね。

演劇界と社会とのギャップ

ここで話は変わりますが、今の沖縄県の演劇に対する業界観を少しお話させていただきます。沖縄で演劇は全く流行っていません。演劇活動は「これっぽちも」認知されていません。その証拠に、あなたやあなたの隣の人っている人に「最近観た演劇はなに？」と問いかけてみてください。おそらく観たことないという人がほとんどだと思います。「ある」



と即答できる人は、友人が出演しているか、よほどの変わり者か。

それに対し当の演劇人達はどう思っているかという「ちょっと流行ってきてる」「私たちは実はすごいことをやっている」「時代が追いついてきた」「観てくれたらきつと感動する」といったようなことを思っている気がします。決して皮肉を言っているわけではないです。演劇自体は誰もができることではないですし、誰も本気で行わないのでやる価値があると感じてしまいます。皆さんと演劇界とのギャップを埋めていけないかと私は思っています。(そしてこのギャップを埋めることが私は好きなのかもしれないと思います。)

私のような演劇人は大学に通い、会社に入社し、結婚し、子どもを産んで…という一般的に誰もが憧れる羨ましい道から外れたのだと自覚しています。だからこそ誰かがやっていることはその人に任せたいかと思ってもいます。本当はそういった道も歩んでみたかったです。だからこそ、それが出来ている皆さんには尊敬しかありません。

社会を生きる大人を見つめる目

私は社会を動かしている皆さんにとっても尊敬の念

を持っていきます。逆に俳優や演劇人にはあまりそのようなことは：嫌われそうなのでこの辺に(笑)

役作りにしても、多くは皆さんや身の回りにいる会社員の方々なのです。どこかで勤務している人の役ばかり。勉強しようと思うと、日頃から皆さんを観察することになります。朝出勤する姿から、営業を頑張る姿、事務作業をテキパキとこなす姿、仕事終わりに仲間と食事をする姿、家に帰り家族と過ごす姿。「おはようございます」「いらっしやいませ」「ご苦労さまです」を私たちは皆さんの日頃の動きから学び、役に活かしています。皆さんのことを想像して役になり切り、笑って、泣いて、苦しんで、幸せな気持ちになったりしています。その視線は皆さんの姿から未来を見る若い人たちにとっても、同じ視線ではないかと私は思います。

会社では大変なこと、辛いこともたくさんあると思います。そんな中で私のような人間がいることを、若い人たちが皆さんの姿を見つめていることを頭の隅に置いてやってください。そして誇りを持ってお仕事をとことん楽しんで欲しいなと願っています。

若い人が命を落とさない未来、大人が楽しいと思える未来は皆さんにしか作り上げることができません。本日も多くのお仕事を抱えている中、ご一読の

いただき、お時間を使ってくたさりありがとうございます。今後ともみなさんからたくさんのご意見をさせていただきます。お仕事頑張ってください！

プロフィール

にしひら としひさ
西平 寿久氏

俳優。

代表作「ミラクルシティコザ」「島守の塔」「バナウル王国物語」「琉球トラウマナイト」「オキナワノコワイハナシ」など

沖縄県出身

2002年より名古屋で俳優を学び始め、ドラマ「キッズ・ウォー」「監査法人」に出演。2009年に上京し浅香航大主演「レモンドロップス」など多くの舞台出演を経験。2014年に舞台公演「やくしく」で沖縄に拠点を移す。糸満市で劇団リバースザワールドを立ち上げ「地域の人と共に」をテーマに舞台を重ねる。ドラマや映画に出演しながら2019年に俳優スクール「01ENTERTAINMENT」をスタート、2020年には「壺屋演劇場かさね」を運営し、役者やお笑い芸人に欠かせない場所になっている。2024年「ぜんざいのかさね」スタート。役者が食っていける環境づくりを目標にして少しずつビジネスを展開中。

